

2022年6月22日(水)第四水曜祈祷会

雅歌3:1~11

「愛の暴走に陥らず」

■雅歌の概要 *人間の男女の愛の素晴らしさを歌う。神名もない。旧約聖書中、類例がない。

- ・1章~2章7節…花婿と花嫁が互いに相手の素晴らしさをほめたたえ合う。
- ・2章8節~3章5節…語り手は専ら花嫁。花婿の語りかけを、花嫁が再録している。
- ・3章6節~6章3節…結婚式に関する事柄。行列、歌、応答、夢、エルサレムの娘たちとの対話。
- ・6章4節~8章14節…花婿と花嫁の会話から、互いに愛の告白を交わし合って終わる。

■雅歌から愛のあり方を学ぶ

- ・私たちは愛や気持ちを目に見える形として表してもらわないと信じられない弱さがある。
- ・愛を信じられない弱さを持つ私たちは、愛を行動や形として表すことの大切さを学ぶ。
- ・キリストも、神のあり方を捨てて人となり、私たちの罪の贖いとなって死に、愛を明らかにされた。
- ・新約聖書も、キリストと教会の関係から、夫婦の関係について教えている(エペソ5:22~33)。

1. 愛するゆえの恐れ(3章1~5節) *結婚式を前にした花嫁の深層心理がうかがえる。

- ①「床についても」…花嫁は床についても眠れず、ついに夜中に花婿を探しに町を歩き巡る。
- ②「見つかりませんでした」…花嫁は眠りにについても、起きて町中を巡って花婿を探し回った。
- ③「夜回りたちが私を…」…夜回りたちに自分が見つけれられても、恋い慕う方は見つからない。
- ④「見つけました」…ついに花嫁は花婿を見つけて、母親に結婚相手として紹介する。

2. 婚礼の日(3章6~11節) *花嫁でも、花婿でもなく、第三者による歌と思われる。

- ①「荒野から上って来る」…待ちに待った結婚の日が来た。婚礼の行列を表している。
- ②「ソロモンの乗る輿」…ソロモンが輿に乗って花嫁を迎えにくる様子(マタイ25:1~13)。
- ③「練達の戦士」…輿の周りは剣で固めた、百戦錬磨の屈強な兵士が取り囲んでいる。
- ④「細工が施されている」…ソロモンは相当な費用をかけて王家にふさわしい輿を作った。

【適用と分かち合い】

- ①恐れや不安を克服するのに必要なことは何ですか。
→相手を信じること。信じることは愛され信じられる経験をして初めてできること。
- ②キリストを通して私たちに示された愛はどのようなものですか。
→一方的な愛、受け入れられた愛。
- ③結婚「式」において一番大事なことは何ですか。
→二人が神の前で誓うこと(誓約)。出席者はあくまで立ち合い人。
- ④信仰者にとって洗礼を受けて生きることは、何を表していますか。
→